

特集

これが私の 訪問看護だ。

実践にみる「在宅看護学」の原点

訪問看護に高度で幅広い期待が寄せられる今、その実践者の“知”を互いに共有し、後進に伝え、さらに深めていくための「在宅看護学」の確立が待望されます。

しかし、訪問看護（在宅看護）は、あまりに幅広い機能を含むため、見える化も、体系化も、評価もしづらいのが宿命です。

さらに現場には、制度や経営・業務上の困難に縛られて、本来の機能を存分に発揮できない状況もあります。

そんななかでも、「病院から在宅へ」という流れはますます推し進められ、訪問看護界全体が再編されようとしています。

今こそ、これまでの確かな実績をふりかえり、日々の実践を共有するべきとき。

訪問看護（在宅看護）の醍醐味、そして専門性を、現場訪問看護師の実践から読み解き、

その共有を試みるとともに、「在宅看護学」確立への一歩とします。